

献詞

真方敬道先生は明年三月を以て定年御退官になり東北大学文学部哲学科の講壇を去られることになりました。御在任二十余年の間に多くの者が学恩を辱くし、しかも先生は常に秘かに人とのものを惜しみ、人それぞれに御指導と労りとを下さるというふうでありましたので、私共が先生から賜ったものは単に所謂学業の面には尽きません。御退官の折にはささやかな論集を編んで感謝の記念に捧げたいという早くからの私共の計画を先生はお許しになりましたが、それものを大切になさろうとする同じ御配慮からと拝察するものであります。しかし私共は一層、単に学業のそれに尽きぬ感謝の記念が願わしく、丁度この折に形を成した幾人かの論考に仮託し、これを多くの者の名によって捧げてそれを表わそうと語らい、重ねてお願いしてお許しいただいた次第でした。

拙い論考の幾篇かであります、この紙面を籍りてここに編み、一同の気持をこめて先生の机下に捧げます。